

<トピックス2：公認心理師・臨床心理士養成に向けて>

心理関係の実習を受け入れる施設指導者側の視点から

上田 和希・中富 康仁
Ueda Kazuki・Nakatomi Yasuhito

ナカトミファティーグケアクリニック

I. はじめに

ナカトミファティーグケアクリニックでは、平成27年5月より、関西福祉科学大学EAP研究所（以下、EAP研究所）との産学医連携により、うつ病リワークとして「復職支援プログラムSPICE」を精神科ショートケアの枠組みで運営している。うつ病リワークとは、一般社団法人うつ病リワーク協会のホームページを見ると、「気分障害などの精神疾患を原因として休職している労働者に対し、職場復帰に向けたリハビリテーション（リワーク）を実施する機関で行われているプログラム」とされている。復職支援プログラムSPICEは、元々医療法人あけぼの会とEAP研究所が共同で運営していたプログラムを、平成27年にそのまま引き継いだもので、その後、当院の特色である疲労検査を取り入れた評価（中富ら、2016山本ら、2017）や疲労に関するプログラムなどを取り入れている。復職支援プログラムでは、関西福祉科学大学およびEAP研究所に所属する大学講師陣による講座や、外部講師による講座など、当院内の人的資源にとどまらない多種多様なプログラムを展開している。また、医療法人あけぼの会より復職支援プログラムSPICEを引き継いだと同時に、平成27年度より、関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科心理臨床学専攻における臨床心理実習の受け入れも開始

した。当該実習は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が、臨床心理士養成大学として指定する大学院における、臨床心理士養成カリキュラムの臨床心理実習に該当し、主に復職支援プログラムSPICE内で実習を行っている。これまで毎年1-3名程度の実習生を受け入れてきた。また、平成29年9月15日に公認心理師法が施行されたことにより、今後は公認心理師養成のための実習生も受け入れていく方針である。

今回は、実習受け入れ施設側の視点から、当院での実習の概要や、実習生に求めたいことなどをまとめる。

II. 復職支援プログラム
SPICEの基本情報

1. 枠組み
精神科ショートケア（小規模）
午前：10：00-13：00（定員13名）
午後：14：00-17：00（定員13名）
2. 主治医の条件
他院が主治医であっても参加可能。
3. 参加条件
うつ病などメンタルヘルス疾患により休職中の方を対象としているが、さらに下記の条件を満たすことも求めている。これらの条件は当院のホームページやSPICEのパンフレットからも確認できる。
・在職中の方で現在休職されている

- 方、復職の意志のある方
- ・精神科、心療内科に通院中の場合は主治医の許可と情報提供書が必要で、プログラム参加中は情報提供いただけることが原則
 - ・週2～4回（1日3時間）程度クリニックへ通院できる方
 - ・アルコール依存症、薬物依存症、パーソナリティ障害などがいない方
 - ・現在、自傷行為、希死念慮がない方
 - ・話をする事の拒否などグループ活動への参加に支障がないこと
 - ・概ね2～6ヶ月参加いただける方さらに6ヶ月以内の復職を視野に入れておられる方

4. 開講日
月・火・水・金
5. コース名
午前のコース：ブラッシュアップコース（以下BUコース）
午後のコース：ウォーミングアップコース（以下WUコース）
6. プログラム概要
WUコースは、主に生活リズムや体力の改善を目標としており、BUコースは、主に再発予防に必要な知識を得ることと実践することを目標としている。令和元年12月現在で開講している各コースのプログラムをTable.1に示す。

ブラッシュアップコース

	10:00～	10:30～		11:40～	12:10～	12:40～
月曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	認知行動療法 / ヘルスマネジメント 4週毎に入れ替え (各60分)	休憩	生活習慣チェック (60分)		終礼 体調チェック
火曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	作業療法 隔週毎に120分と90分を入れ替え		休憩	ティータイム (30分)	終礼 体調チェック
水曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	グループコミュニケーションワーク / キャリアセミナー 4週毎に入れ替え (各90分)		休憩	ワークエクササイズ 個別面談	終礼 体調チェック
金曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	ライフマネジメント/アサーション 4週ごとに入れ替え (各60分)	休憩	グループミーティング (60分)		終礼 体調チェック

ウォーミングアップコース

	14:00～	14:30～	15:00～	16:10～	16:40～	
月曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	生活習慣チェック (90分)		休憩	個別面談/ワークエクササイズ 体調チェック	
火曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	ボディワーク	休憩	グループミーティング (60分)	休憩	ワークエクササイズ 終礼 体調チェック
水曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	ボディワーク ファティーグケア (隔月1回) うつ病講座 (隔月1回)	休憩	ストレスマネジメント/ コミュニケーションワーク (各60分) 4週毎に入れ替え	休憩	ワークエクササイズ 終礼 体調チェック
金曜日	朝礼 体調チェック ラジオ体操	リラクゼーション (月1回)	アートアクティビティ (90分)		休憩	ティータイム (30分) 終礼 体調チェック

Table. 1 2019年度復職支援プログラムSPICEのプログラム

Ⅲ. SPICE利用者の概要

SPICE利用者の概要を以下に示す。

1. 総利用者数・男女数・平均年齢

平成27年5月から令和元年12月31日までの総利用者数は、124名であった。男性が90名、女性が34名であった。平均年齢は40.38±9.4歳であった。

2. 診断名

最も多い主たる診断名は、うつ病で42%、次いで反復性うつ病性障害で32%と、抑うつ障害群に該当する診断を受けた参加者は全体の74%であった。その他の診断として、双極性障害5%（主に双極性Ⅱ型障害に該当）、適応障害が13%、不安障害、ストレス性障害、自律神経失調症、鑑別不能型身体表現性障害、妄想性障害、神経衰弱、慢性疲労症候群、パニック障害が、各1%であった（Fig.1）。

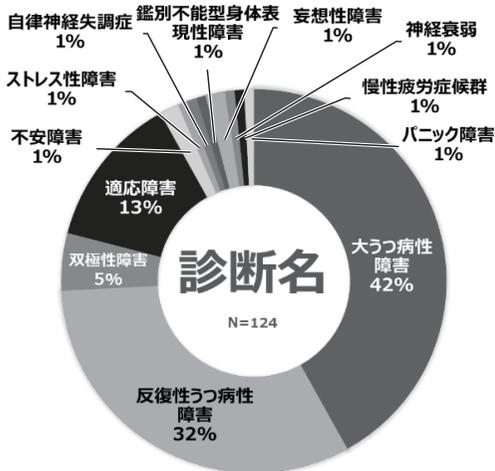


Fig. 1 SPICE利用者の主たる診断名

3. 職種

最も多い職種は、公務員で35%、次いで技術職が19%、企画・事務職が15%と、全体の69%を占める。その他として、金融、販売・サービスが各6%、建設、運輸が各5%、製造、電気・ガス、専門サービス、その他サービスが各2%、医療が1%であった（Fig.2）。

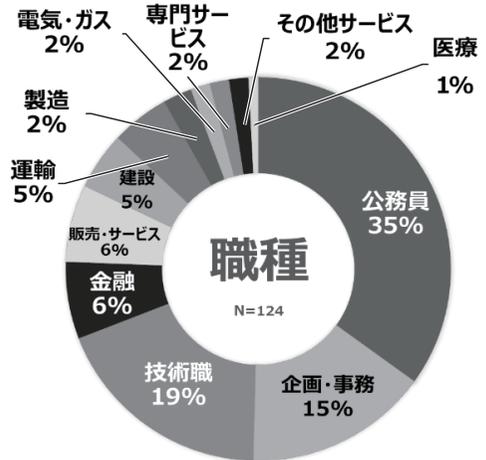


Fig. 2 SPICE利用者の職種

4. 年代

最も多い年代は40代で33%、次いで30代で29%、20代と50代はともに19%であった（Fig.3）。

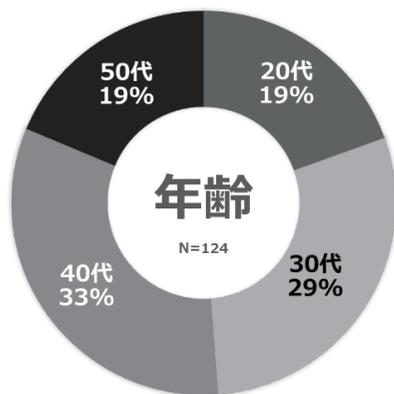


Fig. 3 SPICE利用者の年代

5. SPICE利用期間

最も多い利用期間は、2ヶ月以上4ヶ月未満で32%次いで4ヶ月以上6ヶ月未満で24%であった。その他として、6ヶ月以上1年未満が21%、2ヶ月未満が15%、1年以上が8%であった (Fig.4)。

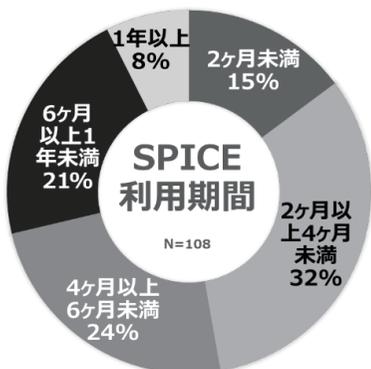


Fig. 4 SPICE利用者の参加期間

6. 転機

最も多かったのは、復職で80%、次いで離脱と中断が各7%であった。離脱とは、なんらかの理由でSPICE利用継続が困難と判断された状態。中断とは、病状悪化につきSPICE利用の中断が必要と判断された状態で、中断後再利用が無い状態を指す。その他として、転職、移行、退職が各2%であった。移行とは、他院のリワーク等、別のリハビリ施設へ移行された状態を指す (Fig.5)。

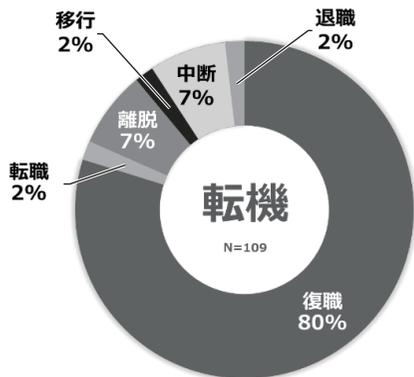


Fig. 5 SPICE利用者の転機

IV. 復職支援プログラム SPICEでの実習概要

1. 対象の学生

平成27年度より、関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科心理臨床学専攻修士課程2年の学生を、毎年1-3名程度受け入れており、令和元年度までで計10名を受け入れてきた。

2. 実習時間

9:45-17:30

3. 実習期間

単位取得要件として必要な実習時間90時間のうち、全部か、他の施設での実習時間を除いた時間を実習期間としている。週1回の頻度を複数週にまたがって実習にあたるか、連続した日に実習にあたるかのどちらかを当該学生らと相談のうえ決定している。

4. 実習内容

主たる実習内容は以下の通りである。

- ①プログラムの準備補助
- ②プログラムの陪席と参加
- ③朝礼・終礼の進行の主担当

特に、③の朝礼と終礼の進行と、②のプログラム参加時が参加者と接する機会となる。朝礼では、各参加者の朝礼時点の気分と体調の確認と、5～10分程度のエクササイズ、ラジオ体操の実施などを担当し、終礼では、各参加者の終礼時点の気分と体調の確認と、5～10分程度のエクササイズなどを担当する。それぞれのエクササイズ内容は実習生に一任しており、参加者の状態を見ながら検討するよう求めている。また、実習生には1日毎に実習目標を立てて実習にあたるよう求め、1日の最後にその日の実習の振り返りを行い、実習で学んだことや質問、感想、目標の達成度などの確認と指導等をおこなっている。

また、状況によって、以下についても実習内容に含まれる。

④心理検査の実施と報告書作成

⑤カンファレンスへの参加

④の心理検査の実施と報告書の作成では、復職等により復職支援プログラムSPICEの利用を終了する参加者への、内田クレペリン精神作業検査、バウムテストの実施と報告書の作成までを担当してもらう。心理検査実施時は毎回クリニックのリワーク担当スタッフが陪席している。単に検査を実施するというだけではなく、実際の現場でおこなわれている一連の流れもおこなってもらう。具体的には、対象者を待合まで迎えに行き、検査をおこなう部屋へ案内し、検査の説明を行い、検査を実施して回収し、検査終了を告げて見送るところまでの一連の流れを経験する。そして、その後の検査結果の取り扱いなどについても学ぶ。心理検査の報告書は概ね1週間程度での提出を求めている。提出された報告書について、検査目的にそった情報が記載されているか、他のスタッフでも理解しやすい文章になっているかなど、現場の実際について指導を行っている。ただ、これら心理検査の実習は、実習期間中に該当するSPICE利用者がいない場合は、担当することができない。そのため、全ての実習生が担当可能なわけではない。また、⑤のカンファレンスへの参加についても、開催日が実習日にあたる実習生のみ参加が可能となる。

心理検査では、心理査定に関して実際の現場でどのように実施されているかを学ぶ機会となり、カンファレンスでは多職種によるアセスメントの実際や連携などについて学ぶ機会となる。

V. 当クリニックでの実習に当たり学生に求めたいこと

実習に当たり、以下の点について事前学習等である程度の知識を求めたい。なお、診断基準はDSM-5)に準拠したものを記載している。

- ① 抑うつ障害群、双極性障害および関連障害群、不安症群、心的外傷およびストレス因関連障害群等に関する予備知識。
- ② 『うつ病リワーク』に関する一般的な予備知識。
- ③ 内田クレペリン精神作業検査、バウムテストの実施法と結果整理、ならびに解釈方法、加えて、CES-D、STAI、GSESの結果整理方法。
- ④ 医療保険制度の概要（特に精神科医療）や自立支援医療制度、健康保険法における傷病手当金制度などの概要。

上記の中でも特に、疾患に関する予備知識は最も重要と考えている。うつ病患者の場合、利用開始時期の回復度によっては、希死念慮や自殺企図などが再燃するリスクもあるため、疾患に関する予備知識は非常に重要である。また、休職者にとっては休職期間中の収入やリワークの利用料などは生活上の大きな問題であるため、医療保険等の制度や傷病手当金制度などについては、事前に概要を学んで実習に来ていただく方が、実習で学ぶ内容がより深まると思われる。

加えて、SPICEは『模擬職場』として設定された施設・プログラムのため、以下についても求めたい。

- ⑤ 一般的に求められるコミュニケーションやマナー（挨拶や言葉遣いなど）
- ⑥ 一般的な企業やオフィスで求められる範囲の身だしなみ（服装や髪型等）

リワークの最大の特徴は、集団の力を利用して、復職準備性（精神疾患が再発せずに

復職できる状態にあるかどうかを高めるところにある。そのため、人同士の距離感が非常に重要となる。SPICEの利用者へは、お互いを尊重したコミュニケーションを求めており、実習生にも同様に求めたい。また、身だしなみも働く感覚を取り戻す上で大事な要素の一つであることから、利用者にはカジュアル過ぎない服装で、出来る限り職場での服装に近づけるように求めている。SPICEの全体的な雰囲気維持するためにも、実習生にも同様に、カジュアル過ぎない身だしなみを求めたい。

VI. 最後に

令和元年度までは、主に臨床心理士養成のための学外実習先として学生の受け入れを行ってきたが、令和2年度からは、臨床心理士養成だけでなく、公認心理師養成のための学外実習を受け入れる予定としている。ただ、公認心理師養成の学外実習については、概要はある程度方向性が示されているものの、指導内容や評価基準など、まだ不明瞭な点が残されており、今後十分に大学と協議した上で、受け入れ態勢を整えていく必要があると考えている。

参考文献

- 1) 中富康仁, 山本春香: 復職支援プログラムにおける客観的疲労検査の有用性, 関西福祉科学大学EAP研究所紀要, 10: 29-36, 2016
- 2) 山本春香, 上田和希, 中富康仁: 復職支援プログラム「SPICE」において睡眠の客観的評価が復職準備性を高めるために効果的に作用した症例, 関西福祉科学大学EAP研究所紀要, 43-51, 2017
- 3) 監訳) 高橋三郎, 大野裕: DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 2014